様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　２４年　５月　２９日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１３３０１４４
研究課題名（和文）高齢者保健福祉専門職の離転職の要因分析と専門職支援の可能性の検討
研究課題名（英文）Analysis of Factors Affecting Turnover among Health and Social Work Professionals in Aging and Examination on a Possibility of Supporting Those Professionals
研究代表者
石川　久展（ISHIKAWA HISANORI）
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：80222967

研究成果の概要（和文）：
本研究の成果についてであるが、初年度は、本研究テーマに関する理論的研究、質的インタビュー調査、アンケート調査の予備調査を実施した。2 年目は、専門職に対する量的調査を実施した。最終年度は、インタビュー調査、ワークショップ、研修などを予定していたが、効果測定を目指した研修以外はほぼ予定通り実施した。全体としては、ほぼ研究計画通りの研究を実施できた。
次に、研究結果から成果をみると、高齢者保健福祉専門職の離転職の状況を評価する燃えつきの現状について､その因子構造や属性別に燃えつきの状況を把握することができた｡さらに、離転職の要因としては、組織的要因や専門職ネットワークやサポート等の専門職支援が関連していることが明らかになり、専門職ネットワーク構築やソーシャルサポートの開発が専門職支援につながる可能性があることが示唆され、研究目的もほぼ達成できる結果となった。
最後に、研究成果の公表についてであるが、学術論文が２本と国際学会での発表４本を含めた学会発表が５本であり、成果についても公表しているところである。なお、現在、査読付きの学術雑誌に１本の論文を投稿中である。なお、研究成果をホームページで公開する予定であったが、それについては達成できなかった。

研究成果の概要（英文）：
As a result of the study, we would like to report from the following two points of view. Were we able to do a research based on the scheduled plan and method?　And were we able to achieve our purpose of the study?
In the first year, theoretical research, qualitative research (interview), a preliminary survey was planned and they were almost completed according to plan. In the second year, a survey on specialist personnel was conducted and about 1,200 replied.　It was also completed as scheduled.　In the last year, interview, workshop, training were planned. Except training which seeking the effectiveness of the measurement, the plans were almost done as scheduled.　As a whole, the study was completed for the most part.　As a result, we were able to grasp the situation of turnover among health and social work professionals in aging.　As for factors affecting turnover, organizational factors, and support for the professionals such as a network and support among specialists were identified. Therefore, we were able to achieve our purpose by getting following implication.　That is, an establishment of a network among professionals and development of a social support may have a possibility to support professionals.
As for publication, 2 academic articles, 5 presentations at academic conferences (including 4 presentations at international academic conferences) were done.　Now one paper has been submitted to a refereed scholarly journal.　The result of the study was planned to be open to public on the internet, but it has not been realized.　After the result of the study is arranged, a Web site will be set up and the result will be open.

The items mentioned above are the result of our research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
２０１０年度	2,600,000	780,000	3,380,000
２０１１年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
総　計	7,700,000	2,310,000	10,010,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学
キーワード：燃えつき、専門職ネットワーク、チームワーク、高齢者保健福祉専門職

１．研究開始当初の背景

近年、高齢者保健福祉分野の専門職、特に介護職の人材確保難や離転職の問題が大きな社会問題となりつつある。高齢者保健福祉専門職の離転職の要因に関する研究は、ここ数年の間で、増えてきているが、まだまだ十分とはいえない。なお、これまでの研究結果をみると、燃えつきは、専門職の給与や休暇等の労働条件が有意に関連するのではなく、職場のリーダーシップや意思決定のあり方、上司・部下との関係などの組織的な要因が有意に関連していることが明らかになってきている。

２．研究の目的

本研究の目的は、大きく２つあげられる。まず、高齢者保健福祉分野に従事する専門職の離転職の実態と離転職に関連する要因を、燃え尽きやストレスとそれらに関連する要因を分析することによって明らかにすることである。もう一つは、専門職の燃え尽きを軽減すると考えられる研修やスーパービジョン、専門職ネットワークや専門職間サポートが専門職支援に及ぼす効果について検討することである。

３．研究の方法

研究方法については、３つを採用している。まず、最初は、質的調査研究であるが、高齢者施設や介護サービス事業者の管理職や専門職に対する個別インタビュー調査と、介護職、看護職、相談員、ケアマネジャーなどの現場専門職に対するフォーカスグループインタビューがある。次に、量的調査研究であるが、初年度末に高齢者施設の介護職員を対象とした燃えつきに関する調査を実施した。また、2 年目には、地域包括支援センターの 3 種類の専門職を対象に量的調査研究を行った。最後の方法は、専門職を対象にして研修やワークショップ等を開き、チームワークやネットワークの効果を検討することであった。最終年度に、釧路市の専門職に対してチームワークやネットワークに関するワークショップを行った。

４．研究成果

（１）理論的研究の成果

理論的研究については、3 年間かけて継続的に行ってきた。特に、高齢者保健福祉専門職の燃え尽きやその関連要因、あるいは専門職ネットワークに関する理論的研究を中心に行った。具体的には、研究分担者の松岡克尚と、専門職の燃えつき、ネットワークやネットワーキング、ソーシャルキャピタル関連図書を収集し、それらに関する理論的な研究を進めた。

（２）質的調査研究の成果

次に、本研究では、専門職を対象に質的調査研究を行ったが、まず、専門職の労働環境の実態、離転職や燃えつきなどの実態を現場の声を中心に把握するために、インタビュー調査を実施した。東京都立川市と沖縄県南城市において在宅で高齢者を支援している社会福祉士や介護支援専門員４名に個別インタビューを実施した。また、北海道札幌市と兵庫県神戸市において老人福祉施設に従事する社会福祉士や介護支援専門員 10 名に対して燃え尽きやその関連要因に関するフォーカスグループインタビューを行った。これ

らのインタビュー調査の結果、燃えつきが単に労働環境のために起こるのではなく、リーダーシップ、コミュニケーションのあり方などの組織的な要因が関連していること、また、ソーシャルサポートや専門職ネットワークが燃えつきを緩和する要因となる可能性があることを把握することができた。さらに、質的な調査研究の一つとして、燃え尽きを軽減する要因である専門職ネットワークに焦点をあて、立川市の介護支援専門員でベテラン、中堅、若手の3人の介護支援専門員の協力を得て、介護支援専門員の日頃のネットワーク業務を分析するために、5日間のタイムスタディ調査を実施した。これらの質的調査研究の結果、残念ながら、専門職のネットワークを活用した業務については、経験別には大きな差がみられなかった。

（3）量的調査研究の成果

①介護職員に対する燃えつき調査の結果。介護職員の調査は、A県の社会福祉法人1法人、B県の社会福祉法人2法人の施設介護職員486名を対象とした。郵送調査法を採用したが、調査期間は、2010年2月1日から2月28日である。有効回答者は188名(38.6%)であった。質問項目は、先行研究の検討、整理を行い、独立変数として「個人属性」と「組織の支援体制」、従属変数として「バーンアウト尺度」を設定した。なお、バーンアウト尺度については改訂日本語版 MBI(Maslach Burnout Inventory)を採用した。

組織の支援体制の構造を明らかにするために、組織の支援体制として設定した34項目を投入した探索的因子分析(プロマックス回転)を行った。つぎに、組織の支援体制がバーンアウトに及ぼす影響を明らかにするために、バーンアウト尺度を従属変数として、因子分析の結果に基づいた4つの要因及び個人属性4項目を独立変数とする重回帰分析を行った。組織の支援体制の因子分析の結果、4つの因子が抽出された。各尺度と項目数については、「運営管理者・リーダーの積極的関与・支援(6項目)」「労働条件(5項目)」「個の尊重(3項目)」「目標管理(2項目)」であり、累積因子寄与率は54.9%、各因子の信頼性係数は全て0.76以上であった。

組織の支援体制の因子である「労働条件」(β=-0.205)、「個の尊重」(β=-0.236)が5%水準でそれぞれ有意な影響要因として示された。なお、この重回帰モデルの決定係数は0.452であり、0.1%水準で有意であった。
分析結果より、組織の支援体制のなかで「労働条件」を整えることで、また、「個の尊重」を高める取り組みを行うことで、バーンアウトは低減することが明らかとなった。

本研究から、高齢者介護施設の経営や運営管理において、「労働条件」は、世間水準並みの条件の確保という観点だけではなく、質の高いサービスを持続することを目的として、介護職員のモチベーションが向上する賃金施策や職務設計を綿密に計画して行うことが必要であることがわかった。現場責任者に向けて行われる階層別研修や、新任現場責任者向けの研修の機会を設けて、仕事の動機づけや意思決定、職場の人間関係とコミュニケーション、チームワーク、リーダーシップなど組織行動に関することや、人の働く意欲を強化しつつ組織の高い効率性を実現するための人的資源管理の基本知識に関することについて、現場責任者の理解を深めることが必要であることがわかった。

②地域包括支援センターの専門職に対する燃えつき調査の結果。

次の量的調査研究の対象は、地域包括支援センターに配置されている社会福祉士、看護師・保健師、主任介護支援専門員である。調査対象者の選定については、全国の市区町村番号を用いて系統抽出を行い、市区町村のホームページ等から把握できる地域包括支援センター966カ所を抽出した。調査方法としては、郵送法を用いたが、それらの966カ所の地域包括支援センターに対して5部の調査票を郵送で送った。回収した調査票は1230であったが、有効回答数は1145であった。調査期間は、2011年1月末から2月であった。燃え尽き尺度として、17項目からなるマスラックの燃え尽き尺度日本語版(田尾・久保1996)を用いた。基本属性としては、性別、年齢、学歴、配偶者の有無、職種、現場の経験年数等である。

17項目からなるマスラック燃え尽き尺度について、因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行ったが、最初の分析において因子負荷量が0.5未満の2項目を削除し、15項目で再度因子分析を行った結果、情緒的消耗感(4項目、α係数=0.794)、脱人格化(5項目、α係数=0.810)、個人的達成感(6項目、α係数=0.811)の3つの因子が抽出された。それらの因子ごとの尺度得点を用いて、属性別に一元配置の分散分析を行ったが、年代別や経験年数別、配偶者の有無の一部との間に有意な結果がえられた。地域包括支援センターの専門職は、基本的には高齢者保健福祉領域の様々な相談を受ける専門職として配置されている。彼らの燃え尽き尺度は、個人的達成感、情緒的消耗感、脱人格化の3つの因子構造に分けられた。燃え尽きの実態については、従来の研究通り、年齢や経験年数と有意に関連していることがわかった。3職種別には10%未満の有意水準ではあるが、有意な差がみられた。

（４）高齢者保健福祉専門職に対するワークショップ

北海道釧路市の高齢者保健福祉専門職約10名と、専門職ネットワーク活用に関する意見交換および理論的な枠組みを中心としたワークショップを開いた。今後、彼らとの間では、ネットワーク活用と燃えつきの関連やネットワーク活用の効果を確認する上で、協力を得る可能性があるということから、継続して協力関係を続けていくこととした。

（５）高齢者保健福祉専門職とのこれまでの研究結果に関する意見交換および検討

研究期間の最終年度は、過去２年間の調査研究の実績を踏まえ、それらの結果の分析・考察を行うことを目的としたが、平成 21 年度及び 22 年度に実施した高齢者保健福祉専門職のインタビュー調査やアンケート調査票の結果を踏まえて、それらの結果を分析・考察した。そのために、学内の研究メンバーを中心に何度か研究会を開き検討を重ねてきた。また、これまで調査協力を頂いた沖縄や北海道等の専門家とも再度意見交換を行い、研究結果に関する考察を深めた。さらに、研究を続けていく中で、日本と同様に介護保険制度を実施している韓国でも、高齢者専門職の燃えつきの問題が深刻化していることがわかってきたので、韓国・ソウルの高齢者福祉研究者と一緒に燃えつきやその支援について、意見交換を行うと共に、今後の共同研究の可能性について協議した。

（６）研究結果の公表

最後の成果は、研究結果の公表である。まず、本研究に関連する学術論文としては、2本ある。一つは、関西学院大学・人間福祉学部の雑誌である「Human Welfare」第４巻第１号に、「高齢者介護施設に従事する介護職員のバーンアウトに与える影響」というタイトルの論文を投稿し、掲載された。また、研究方法の論文として、『ソーシャルワーク研究』に効果測定の技法に関する論文を投稿し、掲載された。最後に、まだ、掲載されていないが、同じ人間福祉学部のレフリー付きの研究雑誌である「人間福祉学」に論文を投稿した。現在、査読中である。学会発表としては、国際学会発表４本、国内の学会発表１本の計５本の学会発表を行った。発表の内容については、５．にある通り、福祉専門職の仕事や労働関係、労働環境に関すること、また、介護職員のバーンアウトとその関連要因に関することであった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

①渡邉健、石川久展「高齢者介護施設に従事する介護職員のバーンアウトに与える影響」査読無し、『Human Welfare』第 4 巻、2012、17-26。

②石川久展、「ソーシャルワーク実践における効果測定の技法」『ソーシャルワーク研究』 査読無し、第 35 巻、2010、294-295。

〔学会発表〕（計５件）

① Ishikawa, H. & Watanabe, K. ”Burnout and its Related Factors among Care Staff in Japan”, 9th Asia/Oceania Regional Conference of Gerontology and Geriatrics, 2011.10.25, Melbourne, Australia.

② 渡邉健、石川久展「高齢者介護施設に従事する介護職員のバーンアウトに影響を与える要因」日本社会福祉学会第 59 回秋季大会、2011.10.10、淑徳大学。

③ Ishikawa,H., Watanabe, Y., & Shirasawa, M.”Hiring conditions of certified social worker by local government officials”,21st Asia-Pacific Social Work Conference, 2011.7.17,Tokyo, Japan.

④ Ishikawa, H.“FACTORS OF UTILIZATION AND COORDINATION COMPTENCE PROFESSIONAL NETWORKS AMONG CARE MANAGERS IN JAPAN”,Gerontological Society of America,2010.11.19, New Orleans.

⑤ Ishikawa,H. “Employment Status and Employment Demands of Certified Social Workers in the Geriatric Setting Under the LTCI in Japan”, IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, 2009.7.7, Paris, France.

〔その他〕

ホームページ等

現在、ホームページを制作中

６．研究組織

(1)研究代表者

石川 久展(ISHIKAWA HISANORI)

関西学院大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：80222967

(2)研究分担者
松岡 克尚(MATSUOKA KATSUHISA)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：90289330

(3)連携研究者
中谷 陽明(NAKATANI YOMEI)
日本女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：00198128
大和 三重(OWA MIE)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：00213900
李 政元(LEE JOUNG WON)
関西学院大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：40388658
松岡 千代(MATSUOKA CHIYO)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：80321256